

四半期報告書

(第128期第1四半期)

自 平成28年4月1日

至 平成28年6月30日

株式会社たけびし

京都市右京区西京極豆田町29番地

(E02851)

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	3
(2) 新株予約権等の状況	3
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	3
(4) ライツプランの内容	3
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	3
(6) 大株主の状況	3
(7) 議決権の状況	4

2 役員の状況	4
---------	---

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9

2 その他	13
-------	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成28年8月5日
【四半期会計期間】	第128期第1四半期（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）
【会社名】	株式会社たけびし
【英訳名】	TAKEBISHI CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤原 宏之
【本店の所在の場所】	京都市右京区西京極豆田町29番地
【電話番号】	075（325）2111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員 経営戦略室長 小倉 勇
【最寄りの連絡場所】	京都市右京区西京極豆田町29番地
【電話番号】	075（325）2111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員 経営戦略室長 小倉 勇
【縦覧に供する場所】	株式会社たけびし大阪支店 （大阪市北区堂島浜一丁目2番1号） 株式会社たけびし東京支店 （横浜市港北区新横浜三丁目18番16号） 株式会社たけびし名古屋支店 （名古屋市中村区名駅三丁目8番7号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第127期 第1四半期連結 累計期間	第128期 第1四半期連結 累計期間	第127期
会計期間	自平成27年4月1日 至平成27年6月30日	自平成28年4月1日 至平成28年6月30日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
売上高 (百万円)	16,368	15,752	71,152
経常利益 (百万円)	449	549	2,239
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	272	401	1,389
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	305	344	1,150
純資産額 (百万円)	20,983	21,790	21,636
総資産額 (百万円)	36,680	37,366	40,246
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	18.50	27.28	94.46
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	57.2	58.3	53.8

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。
なお、重要事象等は存在していません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、新たに決定し、又は締結した経営上の重要な契約等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績に関する状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調にあったものの円高・株安が進むなど一部に弱い動きも見られました。また世界経済においては、中東情勢に起因する地政学的リスクの高まりや英国のEU離脱問題など先行きの不透明な状況で推移いたしました。

このような状況下、当社グループは収益力の更なる向上を目指し、基幹ビジネスの強化に加え「デバイスビジネス」、「装置システムビジネス」等の重点戦略に注力すると共に、IoT関連のオリジナル商品を開発し市場投入するなど、技術商社としての付加価値向上に取り組んで参りました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高157億52百万円（前年同期比3.8%減）、営業利益5億30百万円（前年同期比21.4%増）、経常利益5億49百万円（前年同期比22.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益4億1百万円（前年同期比47.4%増）となりました。

<セグメント別の状況>

産業機器システム分野においては、食品関連向けを中心とした装置システムが好調に推移したことに加え、産業用加工機が増加したことにより、この部門全体では売上高前年同期比18.4%の増となりました。

半導体・デバイス分野においては、中国で半導体の需要が減少したことに加え、デバイスがアミューズメント向けで減少したことにより、この部門全体では売上高前年同期比14.0%の減となりました。

これらの結果、FA・デバイス事業においては、売上高116億89百万円（前年同期比6.2%増、構成比74.2%）、営業利益5億6百万円（前年同期比45.9%増）となりました。

社会インフラ分野においては、病院向け放射線治療装置が前年同期に大型案件が集中したことから減少し、この部門全体では売上高前年同期比34.8%の減となりました。

情報通信分野では、主力の携帯電話がフランチャイズ店再編の影響により減少したことから、この部門全体では売上高前年同期比8.2%の減となりました。

これらの結果、社会・情報通信事業においては、売上高40億62百万円（前年同期比24.2%減、構成比25.8%）、営業利益24百万円（前年同期比73.0%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ28億80百万円減少し、373億66百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金の減少28億7百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末より30億33百万円減少し、155億76百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金の減少21億4百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末より1億53百万円増加し、217億90百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加2億10百万円によるものであります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,280,000
計	28,280,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年8月5日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	14,798,600	14,798,600	㈱東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	14,798,600	14,798,600	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成28年4月1日～ 平成28年6月30日	—	14,798,600	—	2,554	—	3,056

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 83,700	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式（その他）	普通株式 14,712,700	147,127	同上
単元未満株式	普通株式 2,200	—	—
発行済株式総数	14,798,600	—	—
総株主の議決権	—	147,127	—

(注) 1. 「完全議決権株式（自己株式等）」欄は、全て当社所有の自己株式であります。

2. 「完全議決権株式（その他）」欄には証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。

なお「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれております。

②【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社たけびし	京都市右京区西京極豆田町29番地	83,700	—	83,700	0.57
計	—	83,700	—	83,700	0.57

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,400	4,130
受取手形及び売掛金	22,831	20,024
有価証券	15	26
商品	4,263	4,636
仕掛品	11	91
繰延税金資産	337	180
その他	663	580
貸倒引当金	△15	△11
流動資産合計	32,507	29,658
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,323	1,298
土地	1,833	1,833
建設仮勘定	42	—
その他（純額）	86	118
有形固定資産合計	3,286	3,250
無形固定資産		
ソフトウェア	46	83
ソフトウェア仮勘定	14	—
その他	20	20
無形固定資産合計	81	103
投資その他の資産		
投資有価証券	3,411	3,400
長期貸付金	4	4
繰延税金資産	73	74
その他	896	889
貸倒引当金	△14	△14
投資その他の資産合計	4,371	4,354
固定資産合計	7,739	7,708
資産合計	40,246	37,366

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,643	10,538
短期借入金	2,021	1,925
1年内返済予定の長期借入金	100	—
未払金	883	642
未払法人税等	607	122
賞与引当金	658	292
役員賞与引当金	—	27
その他	418	622
流動負債合計	17,333	14,169
固定負債		
長期借入金	—	100
長期未払金	123	115
繰延税金負債	403	440
再評価に係る繰延税金負債	7	7
役員退職慰労引当金	16	17
退職給付に係る負債	673	674
資産除去債務	34	34
その他	18	16
固定負債合計	1,276	1,406
負債合計	18,610	15,576
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,554	2,554
資本剰余金	3,133	3,133
利益剰余金	15,574	15,784
自己株式	△23	△23
株主資本合計	21,239	21,449
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,422	1,448
土地再評価差額金	△1,135	△1,135
為替換算調整勘定	160	76
退職給付に係る調整累計額	△49	△48
その他の包括利益累計額合計	397	340
純資産合計	21,636	21,790
負債純資産合計	40,246	37,366

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	16,368	15,752
売上原価	14,312	13,522
売上総利益	2,055	2,230
販売費及び一般管理費	1,618	1,699
営業利益	437	530
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	22	25
仕入割引	7	7
受取賃貸料	15	14
その他	4	4
営業外収益合計	50	53
営業外費用		
支払利息	4	3
売上割引	17	16
賃貸収入原価	7	6
為替差損	8	6
その他	0	0
営業外費用合計	37	34
経常利益	449	549
特別利益		
投資有価証券売却益	—	106
特別利益合計	—	106
特別損失		
投資有価証券評価損	—	23
特別損失合計	—	23
税金等調整前四半期純利益	449	632
法人税、住民税及び事業税	34	62
法人税等調整額	142	168
法人税等合計	177	231
四半期純利益	272	401
親会社株主に帰属する四半期純利益	272	401

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純利益	272	401
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	38	25
為替換算調整勘定	△5	△83
退職給付に係る調整額	0	0
その他の包括利益合計	33	△56
四半期包括利益	305	344
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	305	344
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

当社及び一部の連結子会社が加入する「京都機械金属厚生年金基金」(総合型)は、平成26年2月20日開催の代議員会で特例解散の方針を決議いたしました。これにより、当該解散による損失の発生が予想されますが、代行部分積立不足額が未確定であるため、当社及び連結子会社に係る影響額は、現時点では合理的に算定する事が出来ません。

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
減価償却費	52百万円	46百万円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年4月28日 取締役会	普通株式	191	13.00	平成27年3月31日	平成27年6月10日	利益剰余金

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年4月28日 取締役会	普通株式	191	13.00	平成28年3月31日	平成28年6月13日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	F A・デバイス事業	社会・情報通信事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	11,007	5,360	16,368
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	—	0
計	11,008	5,360	16,368
セグメント利益	347	90	437

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	437
セグメント間取引消去	—
四半期連結損益計算書の営業利益	437

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	F A・デバイス事業	社会・情報通信事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	11,689	4,062	15,752
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	—	0
計	11,690	4,062	15,752
セグメント利益	506	24	530

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	530
セグメント間取引消去	—
四半期連結損益計算書の営業利益	530

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 6 月30日)
1 株当たり四半期純利益金額	18円50銭	27円28銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	272	401
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	272	401
普通株式の期中平均株式数 (千株)	14,714	14,714

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

平成28年4月28日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額……………191百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………13円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成28年6月13日

(注) 平成28年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

株式会社たけびし

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高橋 一 浩 印指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 木戸 脇 美 紀 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社たけびしの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社たけびし及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。